

第9章 松山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより2017年3月末現在89ヶ所で調査が行われている。

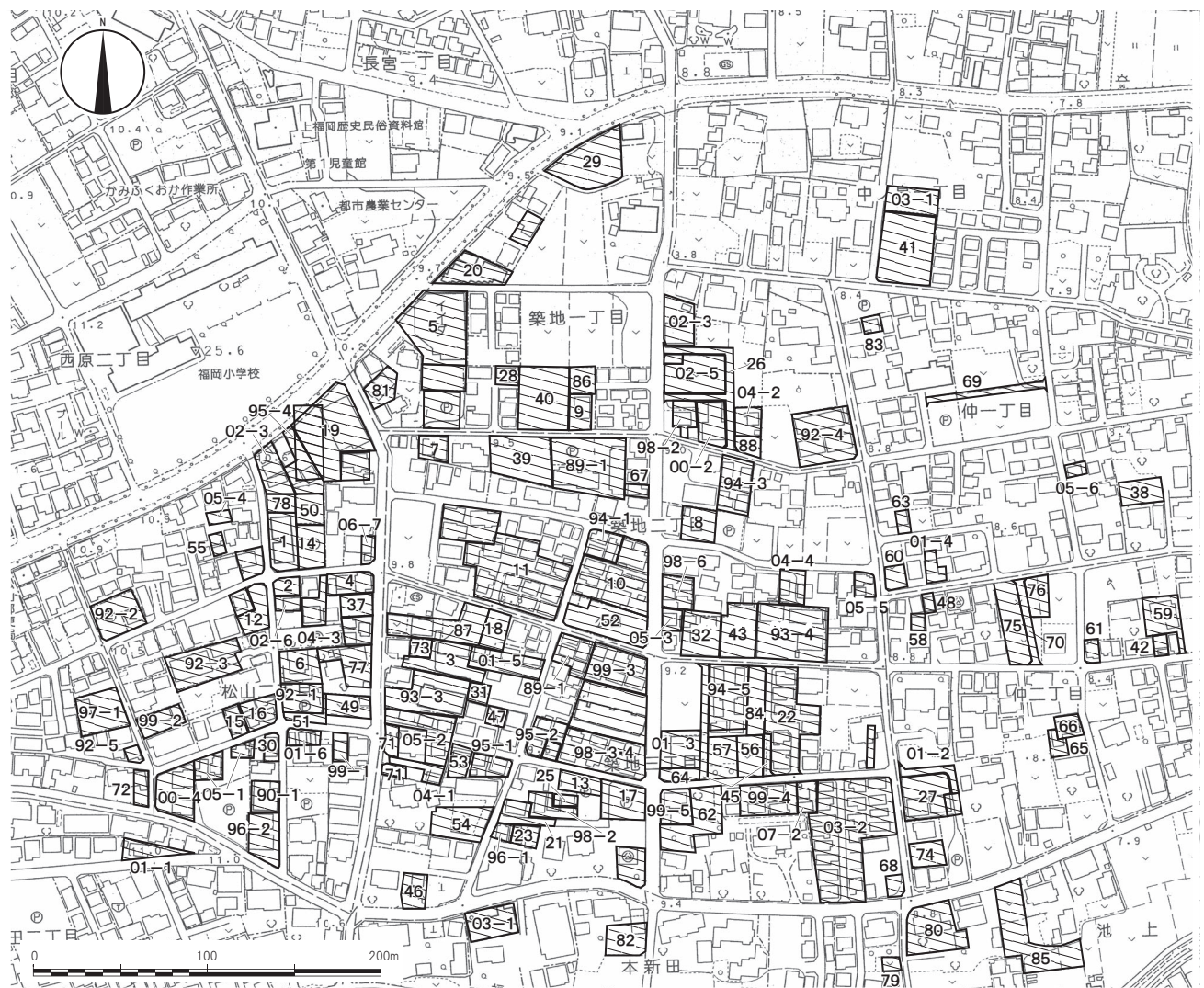
主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

II 松山遺跡第78地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2014年5月15日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2014年5月22日に試掘調査を行った。

試掘調査は、幅約1.5mのトレンチ3本を設定し、



第27図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 1 m である。遺構遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

Ⅲ 松山遺跡第 79 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2014 年 7 月 3 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」が

ふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2014 年 8 月 5 日に試掘調査を行った。試掘調査は、幅約 1.5 m のトレンチ 2 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 1 m である。遺構遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

第 18 表 松山遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 () は試掘調査	面積 (m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
05 試 (1)	松山 2-2-4 の一部	(2005.4.6 ～ 7)	313	土地分譲	遺構遺物なし	市内 1
05 試 (2)	築地 3-1-32・34・43	(2005.4.19 ～ 21)	549	土地分譲	遺構遺物なし	市内 1
05 試 (3)	築地 2-5-32	(2005.4.28)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
31 次	築地 3-1-69	2005.6.14 ～ 23(2005.6.9 ～ 13)	120	個人住宅	古墳時代住居跡 1	市内 1
05 試 (8)	築地 2-5-3	(2005.8.30 ～ 9.13)	567	宅地造成	平安時代住居跡 1	市内 1
32 次	築地 2-5-3 の一部	(2005.8.30 ～ 9.7)9.8 ～ 13	132	個人住宅	平安時代住居跡 2	市内 1
05 試 (5)	築地 2-5-36	(2005.10.31)	125	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試 (4)	松山 2-4-23	(2005.10.20 ～ 21)	161	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試 (6)	仲 1-4-26	(2005.11.14)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内 1
05 試 (7)	松山 2-5-21	(2006.2.28)	100	個人住宅	遺構遺物なし	市内 2
37	松山 2-6-10・13	(2006.4.13)	228	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
38	仲 1-4-3・9・12・13・24	(2006.5.29)	2,176	宅地造成	遺構遺物なし	市内 3
39	築地 2-3-10	(2007.1.10 ～ 20)	937	宅地造成	遺構遺物なし	市内 3
40	築地 1-1-5	(2007.2.2 ～ 8)2.21 ～ 3.9	1,047	宅地造成	奈良時代住居跡 1、中世遺構検出	市内 3
41	中ノ島 1-2-5	(2007.2.7 ～ 9)2.21 ～ 3.5	1,281	宅地造成	中世遺構遺物検出	市内 3
42	仲 2-3-15	(2007.2.13)	108	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
43	築地 2-5-2	(2007.4.11 ～ 24)	668	分譲住宅	堀跡 1、土坑 1、旧石器ナイフ 1 点	市内 4
44	築地 3-2-10・14	(2008.6.9 ～ 11)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
45	築地 3-4-7 の一部外	(2008.9.4 ～ 30)10.1 ～ 23	390	道路	奈良平安時代住居跡 2、掘立柱建物跡 2、竪穴状遺構 1、時期不明の溝 10、土坑、ビット	市内 6
46	築地 3-1-33・35 の一部	(2009.2.17)	309	個人住宅	遺構遺物なし	市内 6
47	築地 3-1-52	(2009.5.11・12)	121	個人住宅	ビット	市内 8
48	仲 2-2-34	(2009.7.1)	67	個人住宅	遺構遺物なし	市内 8
49	松山 2-6-1・14・22 の一部	(2009.10.17 ～ 22)10.27 ～ 11.18	449	宅地造成	平安時代住居跡 1(住居内竪柱炉検出)、土坑 1、溝 1、ビット 1	市内 7
50	松山 2-5-3・17	(2009.11.27 ～ 12.1)	797	分譲住宅	溝 1、ビット 7	市内 8
51	松山 2-6-22・23・28 の一部	(2010.5.10 ～ 13)	360	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 10
52	築地 2-2-1	(2010.8.26 ～ 9.3)	694	分譲住宅	溝 1、落とし穴 1、工事立会	市内 10
53	築地 3-1-11	(2010.9.10 ～ 21)	205	個人住宅	近代以降の溝 3、アナグラ 1、慎重工事	市内 10
54	築地 3-1-6・76 ～ 83	(2010.9.21 ～ 10.1) 10.4 ～ 11.5	540	宅地造成	奈良平安時代住居跡 3 確認、西側 1 の住居は盛土保存、他 2 は本調査	市内 9
55	松山 2-4-24 の一部	(2011.1.17)1.18 ～ 3.1	226	個人住宅	奈良平安時代住居跡 1、掘立柱建物跡 1、本調査	市内 10
56	築地 3-4-7・8 の一部	(2011.4.4 ～ 14) 4.11 ～ 15	483	共同住宅	奈良平安時代掘立柱建物跡 2 他、本調査 (一部工事立会)	市内 11
57	築地 3-4-47	(20011.4.4 ～ 15)	241	分譲住宅	隣接する 45 地点から続く H34 号住居跡と溝、遺物なし	市内 14
58	仲 2-2-31	(2011.6.6 ～ 8) 6.14	115	個人住宅	井戸 1、溝 1、ビット 1、本調査	市内 14
59	仲 2-3-6・9	(2011.8.8・9)8.10・11	560	個人住宅	土坑 2、溝 3、縄文土器、須恵器、本調査	市内 14
60	仲 1-1-15	(2012.3.26・27)	165	個人住宅	堀跡 1、溝 1、陶磁器、焙烙、工事立会	市内 14
61	仲 2-3-3	(2012.4.16 ～ 19)	113	個人住宅	溝 1、土坑 3、陶磁器	市内 15
62	築地 3-5-11・14・19	(2012.6.11 ～ 21)7.23 ～ 8.1	842	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、奈良平安時代住居跡 1、溝 6、縄文土器、銭貨、他	市内 12
63	仲 1-1-55・56・57	(2012.6.5)	120	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
64	築地 3-4-9	(2012.6.7 ～ 15)	314	分譲住宅	溝 4、近世の土坑、陶磁器	市内 15
65	仲 2-1-25・36	(2013.2.13 ～ 18)2.19 ～ 3.21	630	物置	奈良平安時代住居跡 2、掘立柱建物跡 3、土坑 6、溝 6、須恵器、旧石器	市内 15
66	仲 2-1-53・54		179	個人住宅		市内 15
67	築地 3-3-13	(2013.2.19)	92	個人住宅	遺構遺物なし	市内 15
68	築地 3-5-1	(2013.3.7・8)	166	個人住宅	井戸 1、土坑 1、ビット 4、須恵器、土師器等	市内 15
69	仲 1-51・53・55	(2013.9.10・11)9.12 ～ 17	298	道路	縄文時代集石土坑 1、溝 1	市内 18
70	仲 2-2-39・41	(2013.4.11 ～ 16)4.17 ～ 23	220	道路	奈良平安時代住居跡 1、中世以降井戸 1、集石土坑 1、溝 2、須恵器、土師器、土鍾、陶磁器	市内 18
71	築地 3-1-16・32・34	(2013.4.30 ～ 5.1)	240	分譲住宅	ビット 1、古銭、陶器片 1	市内 18
72	松山 1-4-1	(2013.5.24)	199	個人住宅	遺構遺物なし	市内 18
73	築地 3-1-56	(2013.8.19)8.20	165	個人住宅	平安時代住居跡 1、須恵器	市内 18
74	仲 2-1-37	(2013.12.24 ～ 26)	280	分譲住宅	井戸 1、集石土坑 1、溝 2、土坑 1、陶磁器	市内 18
75	仲 2-2-2・4	(2014.1.14 ～ 20)8.5 ～ 11	606	個人住宅	平安時代住居跡 1、溝 3、須恵器、土師器	市内 18
	仲 2-2-48	(2014.1.22 ～ 28)9.26 ～ 10.2	120	個人住宅	土坑 1、井戸 1、溝 1、土器	市内 18
76	仲 2-2-37(6 区画)	(2014.1.22 ～ 28)11.12 ～ 17	120	個人住宅	奈良時代住居跡 1(70 地点と同一)、土師器	市内 18
	仲 2-2-37	(2014.1.22 ～ 28)	362	宅地造成	奈良時代住居跡 1(70 地点と同一)、井戸 2、溝 2、土坑 3、土師器、須恵器、中世陶器	市内 18
77	松山 2-6-2・3・12 の各一部	(2014.3.3 ～ 12)3.13 ～ 27	493	個人住宅	平安時代住居跡 1、土坑 3、土師器、須恵器	市内 18
78	松山 2-5-5	(2013.5.22)	242	個人住宅	遺構遺物なし	市内 20
79	本新田 395-1 の一部	(2014.8.5)	153	個人住宅	遺構遺物なし	市内 20
80	池上 372	(2015.3.12)	1,183	個人住宅	遺構なし、土器、陶磁器	市内 20
81	築地 1-1-12	(2015.3.23)	247	分譲住宅	溝 1、遺物なし	市内 20
82	本新田 411 の一部	(2015.7.30・31)	194	個人住宅	溝 1、遺物なし	未報告
83	仲 1-2-22	(2015.8.31)	98	分譲住宅	溝 1、遺物なし	未報告
84	築地 3-4-13	(2015.9.15・16)	455	宅地造成	平安時代住居跡 1、井戸 1、土師器	未報告
85	池上 362-1 の一部、364・365・366 の一部	(2015.10.1 ～ 19)10.20 ～ 26	1,244	分譲住宅	奈良平安時代住居跡 2、屋外の焼土跡 1、中近世以降の溝 5、須恵器、土師器、陶磁器、鉄製品、石製品	市内 19
86	築地 1-1-4	(2016.7.5・7)	294	分譲住宅	溝 1、陶磁器	未報告
87	築地 3-1-21・22 の一部、39・40・41・84	(2016.9.14)	427	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
88	築地 1-3-36	(2016.10.13)	120	個人住宅	土坑 1、ビット 2、溝 1、遺物なし	未報告
89	築地 2-1-11・16	(2017.3.3 ～ 6)	287	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告

※理：上福岡市教育委員会埋蔵文化財の調査報告書、上遺調：上福岡市遺跡調査会報告書、教要：上福岡市教育要覧、市内：ふじみ野市市内遺跡群報告書



第28図 松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)

IV 松山遺跡第 80 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2015 年 2 月 10 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南端に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2015 年 3 月 12 日に試掘調査を行った。

試掘調査は、幅約 1.5 m のトレンチ 3 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 30 cm である。遺構遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 出土遺物 (第 30 図 1 ~ 3)

遺物はすべてトレンチの表土層から出土したものである。1 は土器 (瓦質) の焙烙。2 は磁器の小杯で型紙絵付の鶴丸文、1880 年代以降。3 は桐一銭青銅銭貨「大日本 大正十一年 一銭」(1922 年)。

V 松山遺跡第 81 地点

(1) 調査の概要

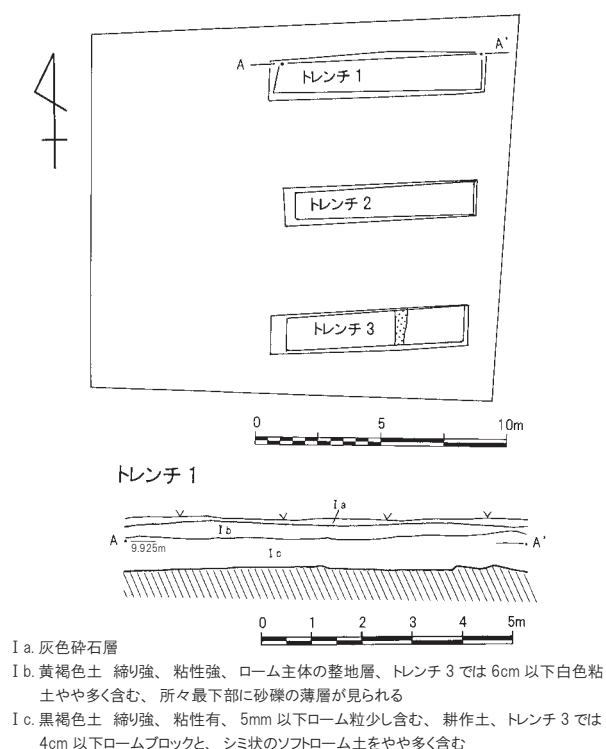
調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2015 年 3 月 19 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため、2015 年 3 月 23 日に試掘調査を行った。

試掘調査は、幅約 1.5 m のトレンチ 3 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 cm である。調査区の西側で道路に平行に延びる溝を 1 本確認した。

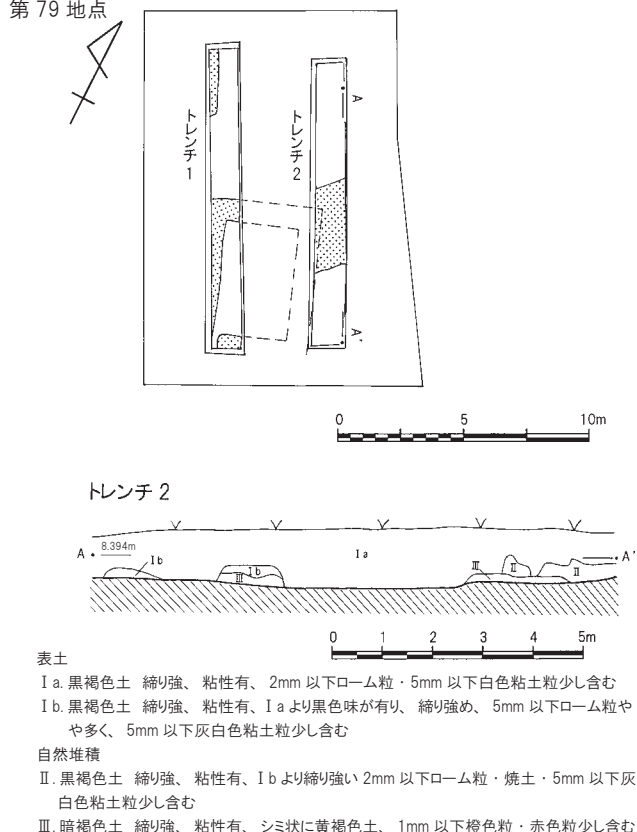
(2) 遺構

調査区の西側の道路は長宮氷川神社の参道に通じる道であるため、溝の一部を検出した。溝の断面形態は浅く広い逆台形で、規模は上幅 31 ~ 105 cm、下幅 23 ~ 70 cm、深さ 24.1 cm である。遺物はないため時期は不明である。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

第 78 地点



第 79 地点



第 29 図 松山遺跡第 78・79 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)



鶴ヶ舞遺跡第 22 地点調査風景



鶴ヶ舞遺跡第 22 地点トレンチ 2



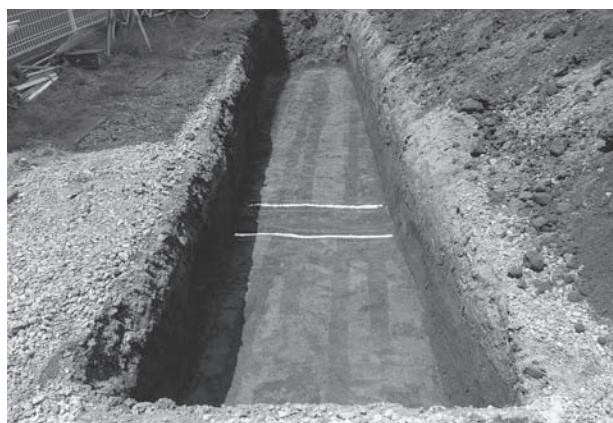
鶴ヶ舞遺跡第 22 地点調査風景



松山遺跡第 78 地点調査風景



松山遺跡第 78 地点トレンチ 1



松山遺跡第 78 地点トレンチ 3



松山遺跡第 79 地点調査風景



松山遺跡第 79 地点トレンチ 1